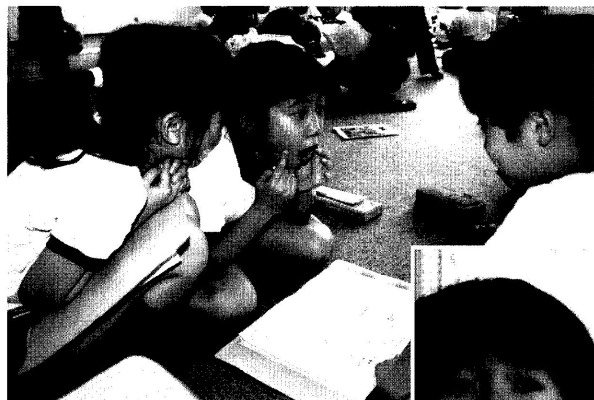


音楽科の研究

伊藤 純子



🎧 キーワード

感受した情感 身体のコントロール 表現技法

🎧 主張

音楽科では、自分の表したい歌唱表現を創りあげ、音楽表現に対する新たな認識を形成していくことを求め、その具現のために、「歌詞」に着目した。「歌詞」は、どの子どもそれを手がかりに想像したり表現の工夫をしたりすることができるからである。

「歌詞」を文脈に即して想像し、その背景や行間を推し量るように働きかけることで、「感受した情感」を表現するための願いをもつことができるようにする。さらに「歌詞」を歌声に響かせる「表現技法」を求めるように促すことで、表現の工夫を身体のコントロールに絞り込み、「感受した情感」にあう歌い方を自己評価しながら歌い直していく姿が期待できる。

このようにして、「感受した情感」と「表現技法」とを何度も歌い直しながらかわらせ、表現を練り上げていくことで、音楽表現に対する新たな認識を創りあげる子どもを育成していけることを明らかにした。

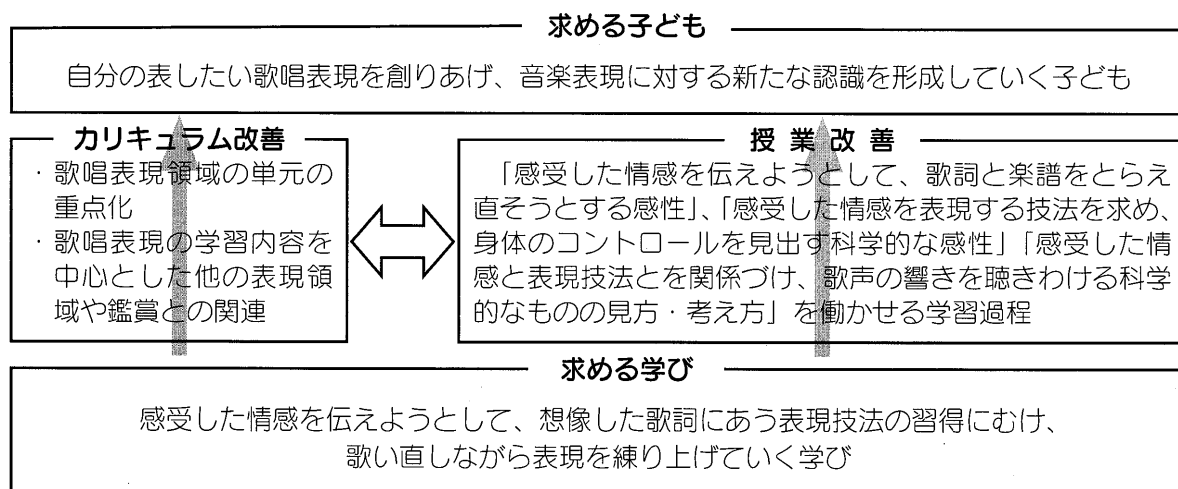
I 自分の表したい歌唱表現を創りあげる音楽科

1. 音楽科で求める子ども

研究主題「創造的な知性を培う」のもとでの音楽科では、子どもが歌詞や曲趣から感受した情感を表すために必要となる表現技法を習得しながら、自分の表したい歌唱表現を創りあげ、音楽表現に対する新たな認識を形成していく子どもを求めている。

ここで言う「歌詞」とは、イメージや内包する意味も含み、「曲趣」とは曲の持ち味を示す。また、「感受した情感」とは、そうした歌詞や曲趣に対する感動や心地よさであり、「表現技法」とは感受した情感を表現するために必要とする、表現の技術とその方法である。

「求める子ども」を具現するために、本研究では「歌詞」に着目した。歌詞は、日常使っていることばであり、どの子もそれを手がかりに想像したり表現の工夫をしたりすることができるからである。「歌詞」を文脈に即して想像し、その背景や行間を推し量るように働きかけることで、「感受した情感」を表現するための願いをもつことができるようにする。さらに「感受した情感」を表現するために「歌詞」を歌声に響かせる「表現技法」を求めるように促すことで、表現の工夫を身体のコントロールに絞り込み、「感受した情感」にあう歌い方を自己評価しながら歌い直していく姿が期待できる。このようにして、「感受した情感」と「表現技法」とを分かちあわせながら、表現を練り上げていく姿が、音楽科で求める学びである。



2. 自分の表したい歌唱表現を創りあげ、音楽表現に対する新たな認識を創りあげるカリキュラム改善の視点

歌唱表現領域に重点をかけたカリキュラムを組む。

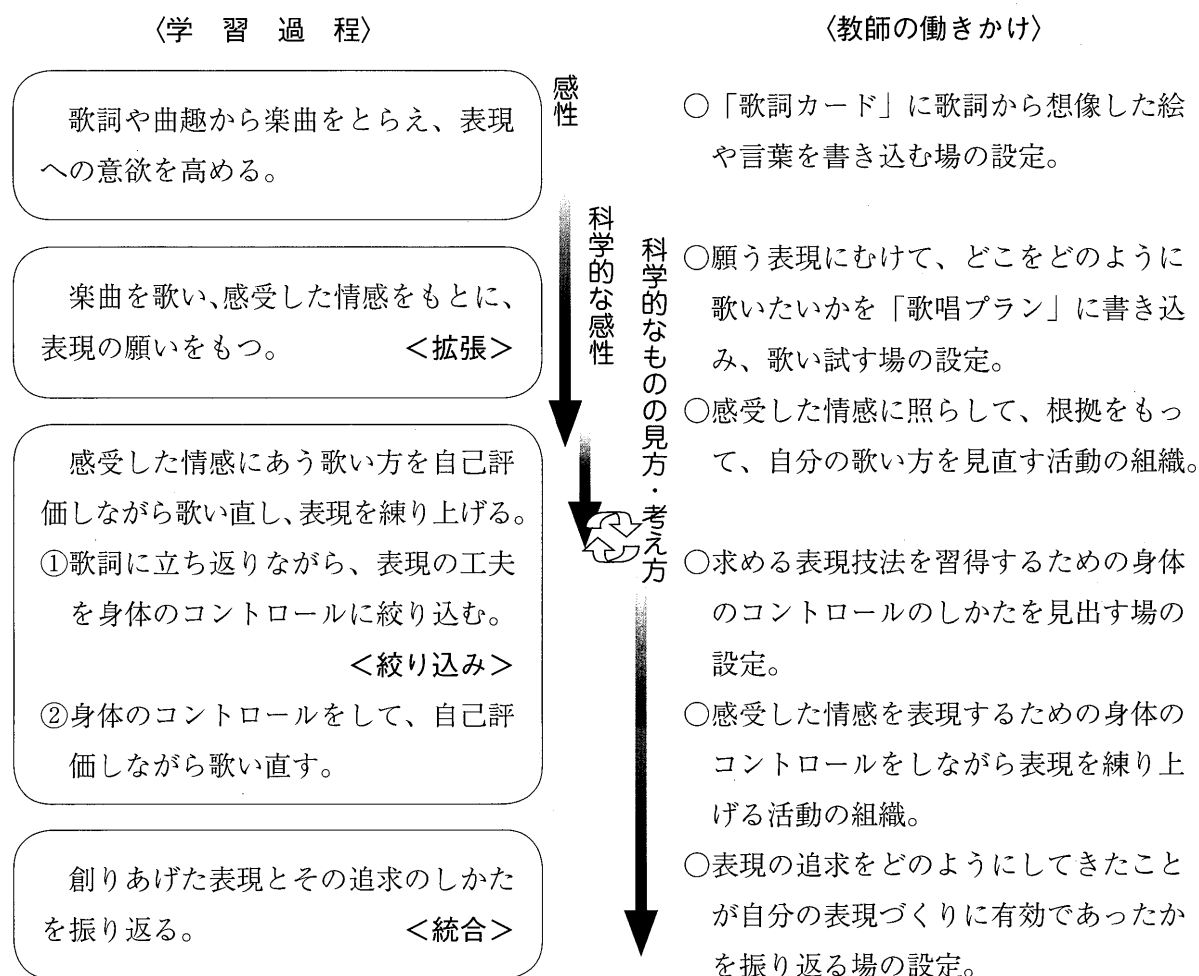
歌唱は、感じる心がもととなっている表現意図をより直接的に表現したり、身体を声の楽器として駆使し多様な工夫をしたりすることができる。歌唱表現で習得する表現技法、呼吸法を中心とする身体のコントロールは、想像する歌詞や曲趣をもとにする身体表現、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの楽器による呼吸法に基づく器楽表現など他の表現に生かされる。鑑賞においても歌唱表現追求を通して学んだ学習内容に正対して聴き、鑑賞する力を育むことができる。歌唱表現の重点化を通して、各表現の音楽に対する情感を深め表現技法の習得を高めていく、計画的な継続的な積み上げが、音楽表現に対する新たな認識を形成する。

3. 「自分の表したい歌唱表現を創りあげ、音楽表現に対する新たな認識」を形成していく授業改善の視点

(1) 音楽科ではぐくむ「感性、科学的な感性、科学的なものの見方・考え方」

感性	感受した情感を伝えようとして、歌詞と楽譜をとらえ直そうとする力
科学的な感性	感受した情感を表現する技法を求め、身体のコントロールを見出す力
科学的なものの見方・考え方	感受した情感と表現技法とを関係づけ、歌声の響きを聴きわけける力

(2) 「感性、科学的な感性、科学的なものの見方・考え方」を働かせた学び



4. 新たな評価の視点の設定

歌詞に立ち返りながら、表現の工夫をしている姿について、評価の視点をもつ。

高 学 年	「～だから」と歌詞を根拠にして、歌詞の解釈を深めながら、感受した情感と歌詞の響き、歌い方をつなぐ姿。
中 学 年	「～だから」と歌詞を根拠にして、歌詞の思いを感受した情感と歌い方をつなぐ姿。
低 学 年	想像をふくらませて「もっと～したい」という感受した情感を歌い方につなぐ姿。

Ⅱ 実践の概要

第3学年

シンドバッドの冒険のお話を音楽で表そう ～「友だちシンドバッド」～

1. 歌詞から想像したことを伝えようと、必要な表現技法を習得し、音楽表現に対する新たな認識を形成していく学び

本単元では、歌詞から想像したことを伝えようと、自分の表したい表現を創りあげていくことを求め、教材曲に楽曲「友だちシンドバッド」を取り上げた。

「友だちシンドバッド」の歌詞は物語「アラビアンナイト」の中の「シンドバッドの冒険」がもととなっており、曲はシンコペーションのリズムや跳躍旋律がついた躍動感のあるふしからできていることから、わくわくする冒険の様子を生かしたつくりになっている。そのため、子どもたちは、歌詞や曲趣を手がかりに冒険の様子を想像し、場面や登場人物への思いをふくらませながら歌い方を追求して、自分の表したい表現を創りあげていくことが期待できる。

このように、歌詞を大切に自己評価しながら歌い直し表現を練り上げていくことで、「上手になった」「うまくなった」から「表したいように表せる」「伝えたいように伝わる」音楽表現に対する新たな認識を形成していくことを願った。

2. 単元の構想

(1) 単元目標

楽曲「友だちシンドバッド」から感受した情感が伝わる表現づくりをしていこうとする中で、シンドバッドの冒険の様子を表すには、歌詞とシンコペーション、跳躍旋律をかかわらせ、歌詞の情景にあった強さや声の出し方、表情を工夫して歌うとよいことに気づき、楽しく曲想表現をすることができる。

(2) 追求の構想（7時間）

1次 歌詞やリズム、旋律の特徴を感じ取って、歌を覚える （3時間）

- ① ・冒険の歌詞を想像して、楽しく歌いたい。
- ② ◎歌詞を想像して歌詞唱、リズム唱、階名唱で歌えるようになろう。
- ③ ・2番は冒険の様子がよくわかる歌詞だから、2番の歌い方を工夫したいな。

2次 歌詞や楽譜と歌い方をかかわらせて、歌い方を工夫する （3時間）

- ④ ◎こわい島から宝物を持ち出したシンドバッドの気持ちや3つの場面が伝わるよう
- ⑤ に、強さや声の出し方、表情を工夫して歌おう。＜歌唱プラン＞
仲間の表現を聴く・体感・身体のコントロール
- ⑥ ・歌い方の工夫を生かして、歌詞ににあう身振りをつけて歌おう。

3次 「友だちシンドバッド」発表会をする （1時間）

- ⑦ ◎「友だちシンドバッド」の発表会をしよう。

3. 授業の実際

- (1) こわい島から宝物を持ち出すシンドバッドの気持ちや場面の様子が伝わる歌い方を工夫したい。

歌唱表現領域では、「歌詞」を大切に
追求を進めている。

本単元では、歌詞カード（縦書きに歌詞を
書いたもの）に歌詞から想像したことを書き
込む活動から学習をスタートした。

こわい島からぬけだして 宝物もってきた
ふくろにいっぱい持ってきた
それは だれでしょう
シンドバッド シンドバッド ぼくの友だち
また行こうよ とともにさあ 勇気を出して

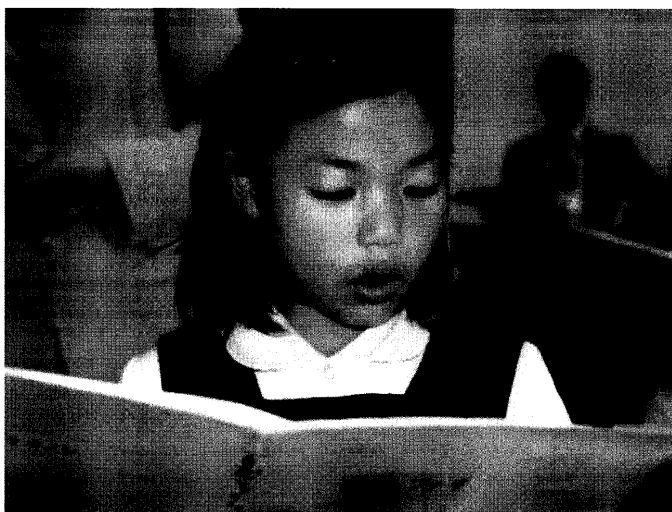
「友だちシンドバッド」の2番の歌詞

こわい島からやっとの思いで
宝物を取り出したシンドバッド
の冒険の様子が伝わるように、
楽しく歌いたい。

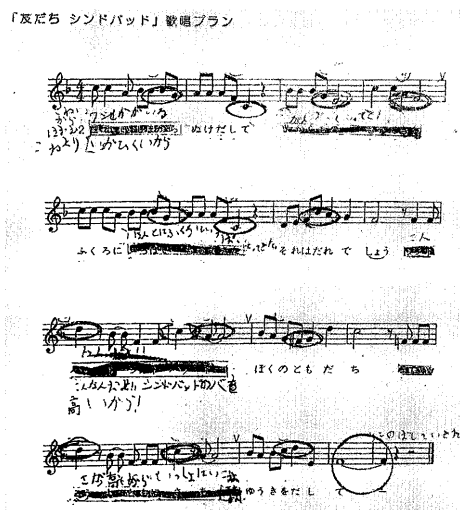
宝物をとる冒険のお話、質問、
呼びかけの3つの場面の様子が
わかるように歌い方を工夫した
い。

冒険の様子を伝えたいと感じた子どもたちは、2番の歌詞に着目し、「歌い方を工夫して楽しく歌いたい。」と表現への意欲を高めてきた。そこで、2番の楽譜にどこをどのように歌うかを書き込み、歌唱プランを作成していった。

正しい音程で歌うことを大切に追求する知子さんは、高い音と低い音に○をつけ、「ほんとにふくろにいっぱい（の感じ）」「いっしょにいこうよってかんじ」とだけ書き込んだ。正しい音程で、想像したことを大切に歌おうとはしているが、歌詞の想像を広げることには弱さがみられる。そこで、自分なりの表現への思いをふくらませている仲間と歌い方や考えを交流することで、知子さんに歌詞をより深く感じ取った願いをもってほしいと考えた。



歌唱プランの歌い方を試す知子さん



知子さんの歌唱プラン

『こわい島』という歌詞を弱くおびえるように歌い、『袋にいっぱい』を強くたっぷり息を吸って歌う茂さんの歌い方をじっと見て聴く知子さん。「茂さんの表したい様子が歌声で伝わったかな？」の問いかけに、知子さんは大きくうなずいた。そこで、茂さんの想像する気持ちになって、歌い方をまねて歌ってみる活動を組織した。茂さんの歌い方の通りに歌おうとして、強さ

や息の吸い方を意識して試し、茂さんの歌い方のよさを体感していく知子さん。それをもとに、歌唱プランを見直す活動を組織した。

どんなふうに歌い方を工夫していききたいの？

『勇気を出して』は、勇気をもって本当にがんばる、という気持ちで強く歌いたい。
特に『出して』の『だ』を強く歌いたい。



歌唱プランを見直す知子さん

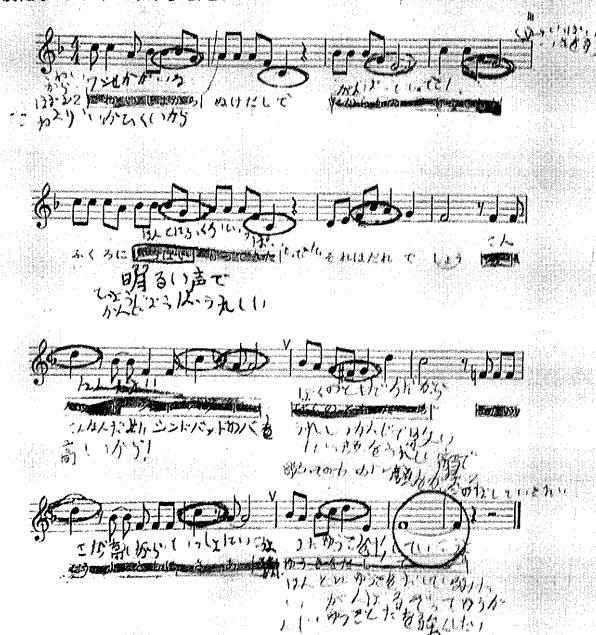
(2) もっと想像した歌詞にあうように強さや表情を変えたい。でも思うようにできないなあ。

歌唱プランをみながら一人歌いをしたり、歌詞の後半から何度も部分練習をしたり、仲間と歌い方を聴き合ったりして自分の表現づくりに取り組んでいく知子さん。歌詞から想像した『勇気』『出して』を強調した歌い方をしようとする。しかし、自信なさそうに小さな声で歌い、強さはあまり変わらない。知子さんの様子を見て、「自分の表したい歌い方ができてきたかな？」と問いかけた。

どうしたら想像したことが表せる強さで歌えるのか、わからない。



「友だち シンドバッド」歌唱プラン



知子さんが書き加えた歌唱プラン

- (3) 深くブレスやおなかの動き、口の開きの身体のコントロールをすると、表したい表現になりそうだ

そこで、教師は知子さんの求める表現のしかたで歌い、歌っているおなかに手を当てるように促した。

おなかすごく動いている。息を吸っておなかに力を入れているから強く歌えるんだね。



私が歌ってみるからおなかに手を当てて聴いていてね。

おなかを引き上げるように動かして歌うと強く歌えることに気付いてきた知子さん。「鏡の前で自分の体の動きを確かめながら歌ってみたら？」と促すと、にっこりうなずき鏡の前に立った。「鏡をみながら一緒に歌ってみよう。」と働きかけると、教師のおなかと自分のおなかの動きを比べ、自分の表したい強さができるようにおなかを意識して動かしながら歌う。『ぼくの友だち』の前で深く息を吸い、その息をためて、おなかから引き上げるようにして歌声に変えることで『ぼく』の発音がはっきりしてくる。歌詞を想像しながら歌う度に、息の吸い方が一層深くなり、頬があがり表情が明るくなってきた。「感受した情感を表現する技法を求め、身体のコントロールを見出す力」を働かせている姿である。

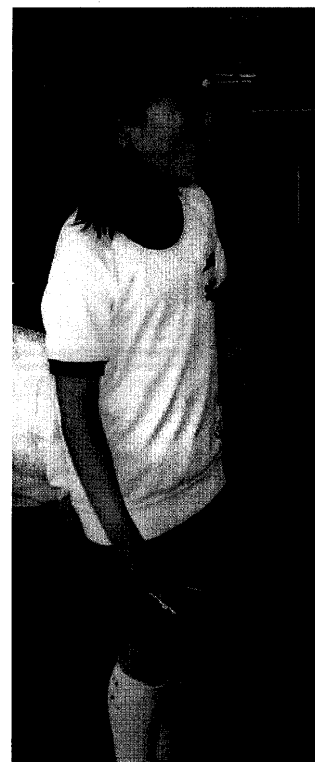
- (4) 身体のコントロールをしていくと、表したい表現になって、歌詞ももっと想像できてきた。

練習を重ね、歌うことに自信をもってきた知子さん。

『ぼくの友だち』の歌い方を生かして、次の歌詞の『ゆうき』『だして』の言葉のはじめが強く響くようになる。それとともに、体が前のめりになる。強くおなかを引き上げることにより体が伸び上がる。一回歌う度に歌唱プランを見て歌い方を振り返り、体の動きによる強さ加減を鏡で確かめ、一層意欲的に歌い込んでいく。

自分の歌い方の変化を自覚してきていると判断し、「さっきと変わった？」と問いかけた。知子さんは、「口を大きく開けて、イメージして歌った。」と答えた。呼気の支え、おなかの動き、口の開きといった身体のコントロールをしながら歌っている。「冒険の感じがする？」の問いかけに大きくうなずいた。歌詞を想像しながら歌うよさを実感し、表したい表現を創りあげてきた。これが、「感受した情感と表現技法とを関係づけ、歌声の響きを聴きわかる力」を働かせ、感受した情感と表現技法がつながった姿である。

正しい音程で歌うことから、想像した歌詞と強さをかかわらせながら身体をコントロールして歌うと表したい表現ができるととらえた知子さんである。



鏡をみながら
自己評価して歌う知子さん

Ⅲ 成果と課題

- 歌唱表現領域に重点をかけ、「歌詞」に着目することは、子どもの感受した情感、表現技法の双方を高め、表したい音楽表現を創りあげていくということが明らかになった。そのために、歌詞から想像したこととその歌い方の見通しを立て、追求の手がかりとする「歌唱プラン」の活用が有効である。
- 音楽科における「科学的な感性」「科学的なものの見方・考え方」を働かせる授業改善のよさが見えてきた。「歌詞」に立ち返り、プランした歌い方と実際とを比較したり、自分の歌声を聴きわけたりする「科学的な」手法を用いることの有効性が明らかになった。今後、それをすすめて一層の授業改善をめざし、カリキュラム改善につなげていく。



<主な参考文献>

- 金本 正武／小原 光一 1999「音楽科の授業をどう創るか」 明治図書
西澤 昭夫 2002「音楽教育における『不易』と『流行』」 教育芸術社
金本 正武 2002「新しい教育課程の展開 小学校音楽科」 東洋館出版
佐伯 胖 2003「『学び』を問いつづけて」 小学館
佐伯 胖／藤田 秀典／佐藤 学 編 1995「表現者として育つ」 東京大学出版会